



映画やテレビでも使う
傷メイクを作ろう!

「特殊メイクってすごい」

粘土で作った
キャラを動かして
撮影しよう!



「クレイアニメを作ろう!」

本格的なスタジオで
自分の歌を
レコーディング!



「オリジナルソングで
ボーカルレコーディング」

めざせ★声優!
実際にアニメの
アフレコに挑戦!



「アニメ声優にチャレンジ!」



こども 夢・創造 プロジェクト

ドキドキの
記者体験...!

こども新聞記者

2014年度 第3期
参加者募集!
&
こども新聞記者
活動報告



「スポーツアカデミー」

「こども 夢・創造プロジェクト」は、
さまざまな分野の「プロフェッショナル」を講師にむかえ、
小・中学生のあこがれの分野や技術、作品づくりなどを
本格的に体験できるプログラムです。
プロフェッショナルの世界を実際に体験する貴重なチャンス!
「おもしろそう!」「やりたい!」その気持ちがあればOK!
自分の新たな才能に気付くかも!?
どんどん参加してみよう!!

「こども 夢・創造プロジェクト」は大阪市と民間企業・団体の協働により実施しています。

実行委員会 (2014年度)

大阪市
Design Your Energy / 大阪ガス
ソフトコンサルティング株式会社
SOFT CONSULTING, INC.
大阪芸術大学
特定非営利活動法人
アーツタウン

協力団体 (2014年度・順不同)

読売新聞 ECCアーティスト報 学校法人 大阪国際学園 大阪アニメーションカレッジ専門学校 jam
大阪芸術大学附属 学校法人・専門学校 大阪文化服装学院 RiverArtPlace com 学校法人 佐藤学園 大阪バイオメディカル専門学校
ヤンマースタジアム長居 / 株式会社 ユマコシノ アソシエイツ / 株式会社 SINDO S.I.C. ショールーム
大阪マラソン組織委員会 / 大阪工業技術専門学校 / 一級建築事務所 重山建築研究室 / 大阪市消防局
アナ・トーク学院 / 株式会社 よしもとクリエイティブ・エージェンシー / 大阪市こども青少年局

充実のタブロイド判24ページ・オールカラー

読売 中高生 新聞

News 10代必見のニュースを
わかりやすく!!



Study 英語も国語も楽しく学ぶ!!

Culture スポーツやファッション、エンタメも!!

Voice 10代のホンネを投稿スマホとも連動!!
スマホ専用アプリ「Yteen」

全国
一斉発売

毎週
金曜日
発行

月額
780円
(税込み)

お問い合わせは **0120-4343-81** または、最寄りの読売新聞販売店まで

読売オンラインの「KODOMO」
サイトでも「読売中高生新聞」に
関する情報をご覧いただけます。





今回の「こども新聞記者」には、小学5年の上岡優斗、名古屋さくら、堀日和、同6年の中島存、中学1年の家原珠利、同3年の島田慎之介の6記者が参加し、10月26日に行われた第4回大阪マラソン取材しました。

当日は、市民ランナー、ランナー盛上げ隊！、そしてチャリティアンバサダーの森理世さんからお話をうかがいました。また同月24、25日に開かれた大阪マラソンEXPO(エキスポ)2014では、ボランティア、出展企業、団体も取材しました。ご協力をいただいたみなさん、ありがとうございました。

(文中の肩書き、年齢は取材時のものです)

1 大阪マラソンEXPO 2014 大和ハウスグループ



大会前の10月24、25日、ゴールのインテックス大阪では、大会に関係する企業や団体が、それぞれの取り組みなどを紹介する「大阪マラソンEXPO2014」が開かれました。「大和ハウスグループ」のブースを訪ねると、村田貴幸さん(27)がお話をしてくれました。



大和ハウスグループ 村田貴幸さん(27) **自分が楽しいと、周りも楽しく、笑顔に😊**

大和ハウスグループのブースでは、市民ランナーのみなさんがマラソンを少しでも速く走れるようになるために、タオルを利用して体を動かすなど、三つのエクササイズとストレッチの方法を教えていました。



村田さんは、「仕事で大変なことは、まったく運動をしたことがない人に、どのようにしたら楽しんでもらえるか、笑顔になってもらえるのかを考えること」と話していました。



そして、「自分が楽しいと、周りのみんなも楽しくなり、笑顔になれる」とも語ってくれました。いつもは、スポーツ施設で音楽を流しながらエクササイズを教えているという村田さん。「笑顔を大切にしている」という言葉が印象に残りました。(家原記者)

笑顔の大切さ 実感しました。

家原記者

2 ボランティア

大阪マラソンでは、ランナーの受付が始まる10月24日から大会当日の26日まで3日間にわたり、約1万人のボランティアが、会場案内やコースの沿道整理、給水サポートなどを行い、大会を支えました。こども記者はインテックス大阪で国内外からやってきた約3万人のランナーに、ナンバーカード(ゼッケン)などを配る受付作業をしていたボランティアの佐竹公仁さん(42)と村中利江さん(43)から取材しました。



忙しく動くボランティアのみなさん




佐竹さんと村中さんの仕事は、出場者にナンバーカードをわたしたり、完走した人にタオルを掛けたりすることです。ボランティアへの参加は、佐竹さんが4回目、村中さんは2回目です。佐竹さんは大阪マラソンが始まってすべての大会に参加していることになります。

ボランティア 佐竹 公仁さん(42) 村中 利江さん(43)
海外の人とは手や体を使ってお話しします

ボランティアが1万人!?

仕事の大変なところは、海外の人とのコミュニケーションだそうです。言葉が通じないときには「手や体を使ってお話をするので」と聞いて、すごいと思いました。ボランティアの人数が1万人と知り、大阪マラソンは改めて大きな大会だと思いました。(中島記者)



中島記者

チョコレートを楽しむ

Chocolate

The Exhibition

チョコレート展

2014年 12月13日(土) ▶ 2015年 2月15日(日)
グランフロント大阪 ナレッジキャピタル
(北館B1F イベントラボ)

◆入場料: 前売り券は11月1日(土)から発売。
一般・大学生1,100円、中学・高校生600円、小学生300円(当日券は各200円増し)

主催: 読売新聞社、読売テレビ
協賛: 日本チョコレート・ココア協会、大手前大学
特別協力: 国立科学博物館 協力: ナレッジキャピタル
●お問合せ/読売新聞大阪本社事業本部 ☎06-6366-2364



撮影：中島存



撮影：家原珠利



撮影：上岡優斗



撮影：島田慎之介

こども新聞記者
が撮った

決定的瞬間!!

特集

こども記者が撮影した写真を特集しました。スタート地点で、マラソンEXPO会場で、そしてゴールで…。記事の取材とあわせて、シャッターをおしました。



撮影：上岡優斗



撮影：島田慎之介



撮影：名古屋くら



撮影：家原珠利



撮影：堀日和



3 ランナー盛上げ隊！ 「TOMOKO KOJIMA CHEER DANCE ACADEMY」

コース沿い15か所に、ランナーを応援するイベント「ランナー盛上げ隊！」の会場が設けられました。こども記者たちは、大阪市中央公会堂前で、元NFL（米ナショナル・フットボールリーグ）のチアリーダーで前回大会と今大会のチャリティアンバサダー（大使）を務めた小島智子さんが主宰する「TOMOKO KOJIMA CHEER DANCE ACADEMY」（トモコ コジマ チアダンスアカデミー）のメンバー約50人による演技を取材しました。



演技には、知的障がいのあるアスリートを応援するNPO法人「スペシャルオリンピックス日本・大阪」に所属するバスケットボールなどの選手6人も加わりました。同団体の柳井祥晴常務理事は「合同練習の成果が発揮できた」と話していました。



TOMOKO KOJIMA CHEER DANCE ACADEMY 横山 璃乃さん(小3)

人を元気にしてくれるダンスが大好き



TOMOKO KOJIMA CHEER DANCE ACADEMY 提供

「ダンス好き？」と聞くと、笑いながら「好きです」と、小学3年の横山璃乃さんは答えてくれました。

3歳のころからダンスをはじめたという横山さん。中央公会堂での応援のダンスを「楽しかった？」ときくと、「楽しい」と返してくれました。

「ダンスは人を元気にしてくれる。体がぎついこともあるけど、ダンスが大好き」と横山さん。将来の夢は、ダンスの先生だそうです。（島田記者）

TOMOKO KOJIMA CHEER DANCE ACADEMY 牧野 瞳さん(中1)

盛上げ隊！でみんなに笑顔 届けたい

笑顔って
すごいかな

中学1年の牧野瞳さんが、チアダンスアカデミーに入ったきっかけは「みんなに笑顔をとどけることが好き」だからで、盛上げ隊は「すごく楽しい」といいます。

やわらかい体を使った動きが得意で、ともだちからも「体がやわらかいね」といわれるそうです。「これからも、盛上げ隊を続けて行きたい」という牧野さんのしょう来の夢は「笑顔をとどけられる仕事」だそうで、モデルになりたいと言っていました。（堀記者）



TOMOKO KOJIMA CHEER DANCE ACADEMY 提供

堀記者

4 チャリティアンバサダー 森 理世さん

大阪マラソンは、参加するすべてのランナーや市民とともに、チャリティ文化の普及に力を入れています。大会では、7人の著名人がチャリティアンバサダーとして広く協力を呼びかけました。こども記者は、その一人の森理世さんにインタビューし、思いを聞きました。

取材終了後、森理世さんと



～森理世さんからのメッセージ～



◎森理世さんのプロフィール

1986年、静岡県生まれ。4歳からジャズダンスを始め、高校からカナダにバレエ留学。2007年、MISS UNIVERSE（ミス・ユニバース）世界大会に日本代表として出場し、優勝しました。在任中の14か月間は米ニューヨークを拠点に世界一のスポークスウーマンとして、難病のこどもたちへのサポートなどのチャリティ活動を行いました。現在は、モデル活動のほか、ダンススタジオ「I.R.M. アカデミー」で指導にあたっています。

みなさん、なりたいもの、夢はありますか？ 夢をかなえるためには、一生懸命努力することが必要ですが、お父さん、お母さん、それにみなさんの先生のアドバイスを素直に受け入れることがすごく大切です。

なぜかという、みんなより先に生まれて、いろいろな経験をしているからです。大人のアドバイスを素直に聞くことが、夢を実現する近道なのです。

なりたいものをめざす途中で、壁に当たったり、ときには友だち同士でつらいことがあったり、勉強に苦しんだり、いろいろなことがあります。

そのとき、あきらめるのではなく、友だちと一緒に乗り越えていきましょう。夢に向かって、しっかりと努力を続けてください。そうすると、きっとかなうと思います。



チャリティアンバサダー 森 理世さん

大人のアドバイスを素直に聞くことが夢への近道

森さんの目
キラキラして
いました



名古屋記者

森さんはチャリティアンバサダーになって「とても、うれしかった」と話していました。大阪マラソンのチャリティカラーの中からオレンジ色を選び、「同じオレンジのTシャツをきている人は、顔も知らないのにしたしてくれて、新しい出会いがあったから」だそうです。

ランナーを見て走りたくならないですか？との質問に、「走りたくないです。27キロ地点の西成区で応援をしていて、つらいはずなのに、笑顔でハイタッチをかわしてくれました」と目をキラキラさせていました。（名古屋記者）

森さんが7色のチャリティテーマのうち、オレンジ色（夢を支える）を選んだのは、「スペシャルオリンピックス日本」を応援したいと思ったからだそうです。

大阪マラソンの魅力について、「一体感があること、ユニークな格好のランナーがたくさんいて、面白いと思った。さすが大阪！」とこたえてくれました。いつかは大阪マラソンを自分のペースで走ってみたいという森さんは、「ランナーのみなさんから元気がもらえました」と話していました。

インタビューの最後に語っていただいたこどもたちへのメッセージを聞いて、夢に向かって素直でいることの大切さを改めて感じました。私も夢に向かって頑張ろうと思います。（家原記者）

5 チャリティ事業

「認定NPO法人育て上げネット」

「大阪マラソンEXPO2014」の「チャリティコーナー」では、寄付金の送り先となる13団体が、それぞれの活動や募金の使い道をパネルなどで紹介しました。このうちの1団体で、困難を抱えた若者の社会参加を支援する「認定NPO法人育て上げネット」(東京都立川市)理事長の工藤啓さん(37)にインタビューしました。工藤さんは自身もランナーとしてレースに参加しました。

工藤さんは若い人が仕事につけるようにぼ金をよびかけています。しかし、工藤さんはぼ金の目標は設けていないそうです。

工藤さんはボランティア(ぼ金のよびかけ)をする時、笑顔でいることを心がけているそうです。育て上げネットのマークは、4色のジグソーパズルのピースの上に、育て上げネットの頭文字の「S」を描いています。パズルは、みんながつながるという意味で、頭文字は、外国の人にもわかってもらえるよう、日本語の「育」ではなく、「S」にしたそうです。(中島記者)




育て上げネット理事長 工藤 啓さん(37) 困難を抱える若者のために 笑顔で活動

育て上げネットのブースでは、ぼ金活動をしていました。工藤さんは、ぼ金の目的を「自分たちがこんな活動をしているということをもっと多くの人に知ってもらうため」と話していました。ぼ金は、働きたいと思っている若者をしえんするために使います。この話を聞いて、せっ極的にぼ金をしようと思いました。

育て上げネットのマークはジグソーパズルの4個のピースを正方形に組み合わせたデザインです。なぜパズルかと言うと、人と人がぴったりと寄りそう感じを出したかったそうです。

工藤さんの夢は、小学校のころはサッカー選手。中学校はそう理大臣。高校では新聞記者になりたいと思っていたそうです。(上岡記者)

ぼくもぼ金しよう!



離れて暮らすお孫さんに、新聞をプレゼントしませんか。

購読料をお支払いいただくと、ご指定先に新聞をお届けする「よみうり購読サポート」

元気かい。新聞をプレゼントするよ。

もしもし…

お申し込みはお電話で

ありがとう! 毎週たのしく読んでるよ!

お申し込み・お問い合わせは
よみうり購読サポート事務局まで

0120-941-441 www.yomisapo.com

(受付時間 10:00~17:00 土日・祝日、年末年始を除く)

よみサポ 検索

●一部配達できない地域や、配達日遅延、郵送となる場合があります。●企業・団体の皆様もご利用いただけます。●「よみサポ」による購読期間は6か月以上となります。●お支払いは、クレジット・カード決済、銀行口座振替、コンビニエンスストア払い、ゆうちょ払いからお選びください。ただし読売中高生新聞、読売KODOMO新聞は銀行口座振替を利用できません。

6 市民ランナー

この大会では、フルマラソンに2万9942人、大阪役所前までのチャレンジラン(8・8キロ)に2039人の計3万1981人が参加しました。フルマラソンのゴールとなったインテックス大阪でランナー取材しました。

ふじた むつみ
藤田睦美さん(49)は、大阪マラソンは4回連続の参加です。以前、ホノルルマラソンを見て、フルマラソンをやりたいと思い、走り始めたそうです。今回の大阪マラソンに参加しようと思ったころ、ひざをいためてしまいました。「参加できるかさえわからなかった」といいますが、見事に完走しました。

途中、なんどもリタイアしようと思ったそうです。一番しんどくて、くじけそうになったのは25

市民ランナー 藤田 睦美さん(49)
ひざの痛み 乗り越えゴール!

キロ~30キロで、リタイアしかけました。ですが、ひざを治してくれた、せい骨院の先生方のためにも「ゴールしなきゃ」と思い、完走したそうです。

「ゴールしたときはとてもうれしかった」と聞いて、自分も「参加してみたいなあ」と思いました。(上岡記者)




とのさき ひろあき
殿崎裕章さん(56)は、東京から来たそうです。練習は、休みの土日にしているそうです。50歳のときに東京マラソンに参加したそうで、大阪マラソンは今回が初めてでした。小学1年から6年まで大阪に住んでいたことがあり、一度は大阪マラソンで走ってみた

市民ランナー 殿崎 裕章さん(56)
東京から参加しました

かったそうです。

今回は30キロぐらいがいちばんきつ、「結果は思い通りではなかったけれど、初めての大阪マラソンは楽しかった」と話していました。(堀、名古屋記者)

「息子が野球でがんばっているから自分もがんばろうと思って歩かずに最後までがんばりました。今回で2回目の参加という小川美鈴さん(45)。小川さんは、大阪マラソンだけでなく、他大会も合わせて7回のフルマラソンへの出場経験があるそうです。

市民ランナー 小川 美鈴さん(45)
息子に力 もらい完走

今回は、26キロを過ぎたころから苦しくなってきたと話していました。

「来年も大阪マラソンを走りたい」という小川さん。疲れて、歩くこともつらそうな様子でしたが、とてもいい笑顔でした。(島田記者)

疲れていてもいい笑顔です!



